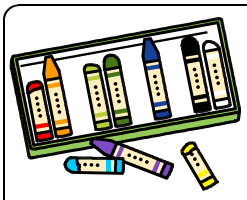

『はだ色』って，何色??

以前，わたしたち日本人はごく普通に「はだいろ」という言葉を使っていました。その言葉に違和感を感じていた人はいなかったのではないでしょうか。

しかし，多くの人種が共存しているこの地球上では，肌の色一つを見ても，様々です。「人権」というものが全世界で重要視されるようになり，肌の色は異なるのに特定の色を指して「はだ色」と規定するのはおかしいのではないかと，「はだ色」という名称を避ける動きが日本で，出てきました。

そこで，色鉛筆や，クレヨン・絵の具等のメーカーは，「**うすだいだい**」または「**ペールオレンジ**」という表記をするようになりました。

もともと，日本で使われていた「はだ色」とは，英語ではflesh（skin）color（ﾌﾚｯｼｭｶﾗｰ）という言葉で，アメリカではすでに1962年からpeach「ピーチ」と呼び替えています。多くの国々でこのように，「人権」を意識した取組がなされてきました。

ところで，ある日，小学校１年生に，こんな質問をしてみました。

「この色は何色？？」

すると，ほとんどの子が，

「はだ色！！」

と言うのです。クレヨンや色鉛筆には「**うすだいだい**」とか「**ペールオレンジ**」と書かれているのに，なぜ子どもたちはその色を「**はだ色**」と言うのでしょう？？

もしかすると，子どもたちに関わっているわたしたち大人が，以前使っていた呼び方を，今も使ってしまっていることによるものではないでしょうか？

前述したように，この地球上には数限りない民族が生活していて，肌の色だけを見ても実に様様です。しかし，肌の色で差別が繰り返されてきたという事実があります。２００９年，アメリカ大統領に就任したオバマ氏が，黒人で初めて選出されて大きな話題になりましたが，今まで肌の色も差別の大きな対象になっていました。

わたしたち一人一人が幸せに生きていく上で，肌の色も，言語の違いも国籍の違いも関係ありません。

こうした人類史上の反省を生かし，色の表記についても改善がされてきました。

わたしたちの生活の中に，普段気にもとめなかった差別がないでしょうか？

こうした「言葉」を通して，無意識のうちに差別をしてしまっているのかもしれません。

「これ，おかしくない？」という私たちの感性や感覚を研ぎ澄ましておきたいものです。

人権教育を進めていくことで，解消に向かうと考えら

解決したい人権課題

れる人権に関する課題として，日本では右のような人権問題が存在しています。

人は，誰もが尊重され，幸せに生きる権利を持っています。これは，出身地，人種や民族，性別，障がい，年齢を超えて，すべての人に生まれながらに与えられた権利です。

こうした課題を解決していくためには，まず，「**自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること**」ができることが大切で，「**互いの違いを認め尊重し合える**」雰囲気づくりが必要です。

これらのことは学校だけで行えるものではありません。御家庭においても，人権感覚・人権意識の高揚のための環境づくりをお願いしたいと思います。

①女性
②子ども
③高齢者
④障害者
⑤同和問題
⑥アイヌの人々
⑦外国人
⑧HIV感染者やハンセン病患者等
⑨刑を終えて出所した人々
⑩犯罪被害者等
⑪インターネットによる人権侵害
⑫その他
- **性的指向に関わる人権問題**
- **ホームレスの人権問題**
- **性同一性障がい者の人権問題**
- **拉致問題**